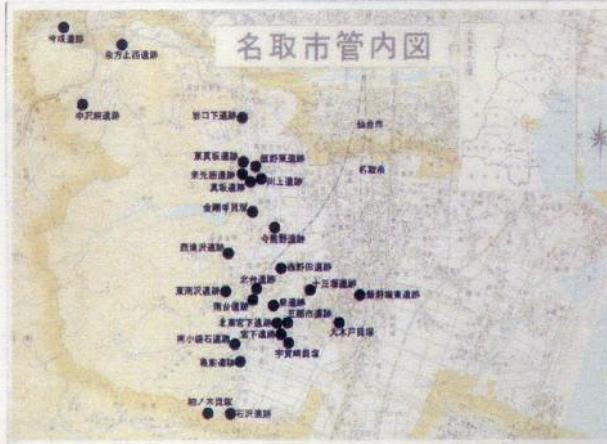


市内の縄文時代 の遺跡分布

I-8



I-8

弥生時代の遺跡は、まだ丘陵上に多く分布しています。丘陵付近の湿地帯は、稻作に適していたのでしょうか。

また、この時代になると名取川沿いに発達した自然堤防上にも遺跡が見られるようになります。自然堤防の微高地は、排水条件がよいため集落や畠地に適し、その周辺の後背湿地は、稻作に適していたからなのでしょう。

I -9-②

市内の弥生時代 の遺跡分布

I -9-①



I -9-①

発展し続ける名取の 基礎を築いた弥生時代

I-10-①

The diagram illustrates the spatial and temporal distribution of Amanu (Amanuwa) artifacts. The vertical axis represents time in years before Christ (BC), with markers at 2400, 2100, and 1900 BC. The horizontal axis represents regions of Japan, with labels for the Kinki, Chugoku, Shikoku, and Kyushu regions. Red vertical bars indicate the presence of artifacts in specific regions at specific times. The legend indicates that red bars represent 'Amanu' artifacts.

Period	Approx. Time (BC)	Regions with Amanu Artifacts
前期 (Early Period)	2400 - 2100	Kinki, Chugoku, Shikoku
中期 (Middle Period)	2100 - 1900	Kinki, Chugoku, Shikoku, Kyushu
後期 (Late Period)	1900 - 1000	Kinki, Chugoku, Shikoku, Kyushu

I -10-①

農耕に適した平野が早くから開けていた名取の地は、生業が狩り中心から稻作中心の農耕に移行し始めた当時の人々にとって、理想的な土地であったようです。このようにして農耕社会の基盤が形成された名取の弥生文化、自然条件に左右されながら、弥生文化を発展させていったのでしょうか。

そして、名取川が運んで来たよく肥えた土が名取平野に堆積していることも助け、徐々に余剰生産物を生み出せるような生産力を確立していったようです。ナイル川流域に発生したエジプト文明が「ナイルのたまもの」といわれたように、名取平野も名取川の恩恵を受けていたのです。

名取平野の開墾や治水などの共同作業では、指導者の役割が大きく、かれらはしだいに人々の生活全体を支配する権力を握るようになり、豪族と呼ばれるような支配者へと生まれ変わっていったのでしょうか。

古墳時代に出現する雷神山古墳や飯野坂古墳群などの大規模な古墳が、名取平野に数多く存在することは、この地域に豪族がいたことと、それをつくるための経済的な基盤がしっかりしていたことを物語っています。まさに、弥生時代に始まる稻作農耕が、その時代以降も発展し続ける名取の基礎となっているのでしょうか。

I-10-② H11Y-4